

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：北海道科学大学 国際協力特別講義 「民族と宗教」
2. 実施者：岡田朋子（一財）北海道国際交流センター
3. 日時：2017年12月6日（水）13時00分～14時30分
4. 場所：北海道科学大学 E303（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）
5. 参加者：72名
6. 実施報告：

北海道科学大の「看護科」の学生を対象に「NGOにおける国際協力」というテーマで講義をした。このクラスでは「民族と宗教」という科目でこれまで JICA や UNHCR の活動についての講義も受けており、今回は NGO が行っている国際協力ということで、ODA や国連とは違った立場で行う国際協力の話をした。学生にとっては国や国連が行う活動と NGO が行う活動の違いの区別があまりつかなかったようで興味深く話を聞いてくれた。また国際協力の指針となる SDGs についても自分たちが現在や未来でできることなどをグループで話しあってもらった。ほとんどの学生が看護師を目指しており、SDGs の3番目に挙げられている「すべての人に健康と福祉を」に焦点をあてて、将来海外でも活動してみたいという意見が多くあった。またクラスに数人しかいない男子学生に対してジェンダーについて考えたりして活発な意見交換ができ、今回の講義をとおして身近のところから国際協力を考えるよい機会になった。

7. 別添（写真）



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際協力フェスタ 2017「ねえ、知ってる？私たちにもできること」
2. 実施者：池田 誠（一財）北海道国際交流センター
3. 日時：平成 29 年 12 月 16 日（土） 10 時 00 分～17 時 00 分
4. 場所：札幌駅前地下歩行空間（北 3 条交差点広場）
5. 参加者：1500 名
6. 実施報告：

毎年開催される「北海道国際協力フェスタ 2017」「ねえ、知ってる？私たちにもできること」において、活動紹介ブースにおいて NGO 相談の窓口を開設し、関係団体や市民の方への NGO の相談を行った。国際協力フェスタは北海道内の国際協力・交流に関わる団体が自分達の活動を紹介する機会でもあり、横のネットワークを広げる場でもある。NGO 関係者に対しては日頃の運営などで悩んでいることやファンドレイジングなどについて相談窓口で対応をした。また一般市民に対しては NGO とは何か、また自分達のできる国際協力は何かなどの質問をいただき、様々な国際協力活動の事例や NGO への寄付、開発教育、フェアトレードなどについて説明をした。多くの方が北海道にこんなにたくさんの団体があることを知らなかったため、今回のイベントでは広く一般の方に国際協力について考えていただく良い機会となった。



平成 30 年 1 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告致します。

記

1. 企画名:平成29年度「難民ワークショップ」
【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
2. 出張者氏名:安達三千代
3. 依頼元/主催等団体名:東北学院大学 地域共生推進機構
4. 実施日時:平成 29 年 12 月 9 日(土) 14 時 00 分~17 時 00 分
5. 実施場所:東北学院大学土樋キャンパス コラトリエ・リエゾン:ワークショップコート(宮城県仙台市青葉区土樋 1 丁目-3-1)
6. 実施内容:
参加人数:18 人 (東北学院の学生・教職員 14 人と一般参加者 4 人)
東北学院大学では、学生・教職員を対象に、地域から地球上の人々の現状や課題等を見つめ共有し、理解と認識を深めることを目的としてワークショップを開催している。前年度に引き続き、「難民を知るワークショップ」による模擬体験を通じ、難民の置かれている状況や日本の ODA を活用した国際協力活動について知ってもらうとともに、解決のために何ができるかをいっしょに考えた。

ワークショップは、以下の流れに沿って進められた。

- ・シリア紛争とは - ポイント6つ
- ・難民とはだれのこと? 難民の定義
- ・6枚の写真-もしあなたがシリア人だったら、いつ避難しますか。
- ・難民登録申請書を書いてみる
- ・難民キャンプはこんなところ
- ・キャンプに残りますか、外に出ますか。
- ・国際社会、日本からのさまざまなシリア難民支援

7. 所感

・公募で参加された方も3人いたが、ワークショップ終了後もたくさんの質問が寄せられた。

・隣りはカフェという、大学のオープンスペースでの開催だったため、前面にスクリーン2枚に写った難民についての写真や資料を、参加者以外の人たちにも立ち止まって見ていただけた。

<参加者アンケートから>

- ・限られた時間で基本的な事柄、具体的な事例等をカバーしていて、たいへん満足。
- ・ワークショップの中の具体的な難民大変で気がつくことが多くあった。
- ・難民の表面的な部分しか知らなかったが、実際に自分が当事者側の気持ちになることで、理解が深まった。
- ・シリア情勢は多くがわからないまま、報道されている。今回難民の現状を知れてよかった。
- ・難民キャンプにしぼって考えるなら、十分な食料と衛生設備が必要と感じた。
- ・家族と離れることを前提に逃げなければならない場面が印象に残った。

	
<p>奥にカフェのあるオープンスペースで開催された。</p>	<p>どんな出来事をきっかけに、自分たち家族が避難を決めたか、発表する参加者。</p>

以上

平成 30年 1月 10日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告について

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名：SGH「グローバル・ラーニング」での講演
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
2. 出張者氏名：阿部真理子
3. 依頼元／主催等団体名：学校法人 九里学園 九里学園高等学校
4. 実施日時：平成 29年 12月 21日(木) 13時 15分～15時 05分
5. 実施場所：学校法人 九里学園 九里学園高等学校 米沢市門東町1丁目 1-72
6. 実施内容

対象：九里学園高等学校 グローバル・ラーニング受講生徒 26人

九里学園高等学校は、スーパーグローバルハイスクール・アソシエイトとして、グローバルな国際人の育成を目標に、各教育カリキュラムを展開している。その一環として依頼があり実施した。

講演内容

今回、難民をテーマに模擬国連を実施するにあたり、弊団体のイラク・クルド自治区におけるシリア難民・イラク国内避難民支援(N連、JPF事業)を元に制作した「難民を知るワークショップ」を行った。弊団体の難民支援の事業背景、事業内容等について紹介を行い、NGO相談員制度、ODAについても触れ、日本の国際協力活動についての理解を深めることが出来た。

7. 所感：通年で国際関係の授業を行っている学校であり、難民についても別の講師から話を聞いたばかりであったので、生徒の関心も高かった。

参加者からのアンケートから

- ・ 難民について自分たちの思い込みで見ていたところがあったが、この授業を通じて、本当に必要な支援は何か？を考えることが出来た。
- ・ 難民キャンプは、砂漠の中であって暑いというイメージがあったが、冬は雪が降ることもある中で、裸足でいる子どももいることを知り、生活用品の支援がこれからも必要だと思った。
- ・ 実際のキャンプ生活の写真を見たとき、福島 of 仮設住宅での生活の様子と重なり、避難生活を余儀なくされている人たちへの支援は国内外問わず、目を向けるべき問題だと感じた。
- ・ わたしたちが、国際協力を行う意義や支援活動をする上で考えなければならないことをもっと知りたいと思った。
- ・ 授業の最後に、シリアの子どもたちの内戦前の笑顔を見たときは、心が

震えるような気持ちになりました。今まで、難民は遠い存在と感じていましたが、自分にも可能性がないわけではないことを改めて感じ以前よりは身近なものになったような気がします。

- ・ IVY の教育支援はとてもいいと思いました。学校は、読み書きを教えてくれる場所だけでなく生きる知恵も教えてもらえる場所です。将来を担う子どもを育てることは、20 年後、30 年後の社会のためには大切だと思いました。

以上



ワークショップが始まる前に、NGO 相談員制度、ODA について説明を行った。



難民を知るワークショップの一場面。写真を時系列で並べる。

2018年1月10日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「中種子中学校国際理解教育授業への講師派遣」
開催日時： 2017年12月6日（水）14時40分～15時30分
主催者： 中種子町立中種子中学校（担当教員： 溝口博史）
場 所： 中種子町立中種子中学校（鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5208-1）
出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 穂積武寛
参加者数： 約 200 名（中学 1～3 年生）

実施内容：

中種子中学校では、総合学習の時間を利用し、『国際理解』と『地域社会理解』の2つのテーマを年毎に入れ替え、外部から様々な講師を招いている。今年は『国際理解』の年にあたり、AAR Japan [難民を助ける会] が講師として招かれることとなった。

講義は『難民を考えよう』と題し、難民条約上の「難民」の定義や、UNHCR が発表している難民・国内避難民・庇護希望者数など、難民問題理解のための基本事項を解説した。

これを踏まえて、「ある日突然、あなたが難民になったら？」との問いかけのもとに、全員がシリアに住んでいたが、戦争がひどくなったため国外（トルコ）へ避難して難民になった、という仮想の設定を説明し、①難民キャンプに入るかどうか、②キャンプに入らない場合、トルコにとどまるか、第三国を目指すか、シリアへ戻るか、について生徒たちに考えてもらい、選択結果を挙手で示してもらった。この際、それぞれの選択肢を選んだ生徒の中から数名をランダムで指名し、簡単に決断理由を説明してもらった。

以上のプロセスは、本来はもっと少人数に対して、グループワーク形式で行うものであるが、今回は難民問題について少しでも「自分事」として考えてもらいたいとの思いから、簡易版のワークショップとして実施したものである。

これに続いて、実際の難民の状況について理解を深めてもらうために、当会がトルコで実施しているシリア難民支援事業を写真を交えて説明するとともに、受益者であるシリア難民の子どもたちの声も紹介し、自分たちが仮の設定のもとでほんの

わずかの時間だけ考えた課題が、こうした子どもたちやその家族にとっては何年もわたって悩み続けなければならない深刻なものであることを強調した。

最後に、難民問題の理解と支援のために、中学校からでもできることとして、他の中学校での調べ学習や、地域社会での募金活動、文化祭でのチャリティ・イベントの様子などを紹介した。

所感：

難民は、日本社会では目立った存在ではないため、どこか遠い国の出来事ではなく、いつ自分と自分の家族に降りかかるかもしれない「自分事」としてその深い悩みを共有する、という体験をしてもらうのは容易ではない。特に今回のように大規模な参加者に対する講演では、ワークショップを行うことは難しいが、ごくわずかの時間でも「もし自分がそうなったら」と考えてもらったことで、難民問題への想像力や国際協力への関心を生むきっかけとすることができた。今後もやり方を工夫し、単なる一方向のレクチャーにとどまらない、インタラクティブな出張サービスができるようにしていきたい。

また継続的に国際理解について取り組んでいる学校で、NGO の国際協力活動や学校でできる活動を直接伝えたことで、具体的なアクションにつながることを期待している。



講演の様子

平成 30 年 1 月 10 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名：「人権週間にちなみ人道支援活動の現状について」

開催日時：平成 29 年 12 月 7 日（木）14 時 50 分～15 時 50 分

主催者：みやき町立中原中学校

場所：中原中学校（体育館）〒849-0102 佐賀県三養基郡みやき町大字蓑原 1475 番地 9

出張者：特定非営利活動法人難民を助ける会東京事務局スタッフ

プログラムマネジャー野際紗綾子

参加者：学生 216 名、教職員 13 名

実施内容：

国際協力、支援活動、障がいについてスライドを使用し説明。

① 国際協力と NGO と AAR Japan

② 「私たちにできること」小さなことでも、一人ひとりに出来ることがある。

所感：

今回の講演依頼は人権週間に合わせたものであり、特に災害時に障がい者が置かれる状況を人権の観点も踏まえながら活動現場の写真とともに説明した。生徒たちには日頃自分ごととして捉えにくい状況も、写真や直接支援活動に当たっている国際協力 NGO のスタッフからの説明により、イメージがわき身近に引き付けて感じてもらえた様子であった。

写真





2018年1月10日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「熊本県立翔陽高等学校国際理解教育授業への講師派遣」
開催日時： 2017年12月20日（水）13時35分～15時25分
主催者： 熊本県立翔陽高等学校（担当教員： 松永志野）
場 所： 熊本県立翔陽高等学校（熊本県菊池郡大津町室 1782）
出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 穂積武寛
参加者数： 約12名（高校生8名、教員4名）

実施内容：

熊本県立翔陽高等学校では、英語の授業において「地雷問題」を取り上げ、生徒がグループに分かれ、各グループが調べた地雷問題の関係者に生徒が直接英語でメッセージを送ったり、質問をしたりなどの学習を行っている。

昨年、AAR Japan [難民を助ける会] にもこの一環で翔陽高等学校から質問の手紙が届き英語で回答したところ、教員より NGO 相談員の出張サービスを利用して生徒に直接講義を行ってほしいとの要望を受けた。

授業は2コマ行い、前半では生徒が3グループに分かれ、それぞれで行ったりサーチと、国内外の関係者への英語でのコンタクトの取り組みを、拙いながらもしっかりとした英語で報告した。出張者からは、これに対して教員の方々と並んで、内容やプレゼンテーションの良かった点、改善すべき点について講評を行った。

後半では、「簡易な英語でレクチャーをしてほしい」という学校側の要望に沿い、「Thinking about Others」と題して、地雷のような自分には直接関係のない問題について、悩み苦しんでいる人の立場に立って考えるワークを行った。具体的にはシリア難民の状況を写真で見せ、「あなたがここにいたら、どんなことに困るだろう？何が不安に感じるだろう？」と繰り返し問いかけ、生徒に考えを発言してもらった。この際、主語・述語で成り立つ文の形式にすることや、文法的正確性はいったん忘れて、とにかく頭に浮かんだことを単語だけでも良いから英語でメモし、発言してもらうように留意した。

最初はとまどっていた生徒たちだったが、単語だけでも良いということがわかると、実際に自分の考えを英単語でノートに書き出し始めた生徒もあり、教員からは

「英語でメモを取るところを見たのは初めて」とのコメントを受けた。

最後に、高校生でもできる国際協力として、他校での取り組みの事例をいくつか紹介した。

所感：

今回は、まだ決して英語の運用能力が高いとは言えない高校生に対して、あえて英語を中心に、国際社会の中での地雷問題や国際協力の意義をテーマに講義およびワークを組み立てるというチャレンジングなものであったが、生徒の様子からは、国際社会の問題について英語を使いながら考え、自分の考えを述べることで一步世界に近づく感覚を得ていたように見受けられた。それに加えて、挨拶レベルにとどまらない、英語を使っのワークに自分が参加したことでの達成感を感じてもらえたのではないかなと思う。

他人事になりがちな地雷、難民などの問題について自分に引き付けて考えてもらうワークを通じて、国際協力への関心を高めてもらうことができた。今後も、こうした英語のワークも機会があれば学校側に提案していきたい。



後半のワークの様子



前半でリサーチ結果を発表する生徒

平成 30 年 1 月 17 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名：「佐賀県における国際理解教育：支援活動と私の生き方」

開催日時：平成 29 年 12 月 21 日（木）10 時 30 分～11 時 40 分

主催者：武雄市立山内中学校

場所：山内中学校（多目的室）〒佐賀県武雄市山内町三間坂 14209 番地

出張者：特定非営利活動法人難民を助ける会東京事務局

プログラムマネジャー 野際紗綾子

参加者：生徒 76 名、教職員 6 名、武雄市行政関係者 3 名

実施内容：

NGO スタッフとしてのキャリア、支援活動、国際協力についてスライドを使用し説明。

- ① 国際協力と NGO の活動。AAR がの活動を事例として紹介
- ② 緊急支援の被災者支援の現場から、特に障がい者の支援に焦点を当てて説明。
- ③ 「私たちにできること」小さなことでも、一人ひとりに出来ることがある。
- ④ 国際協力の仕事とワーク・ライフ・バランス～支援活動と私の生き方

所感：

終業式前日の慌ただしい日程の中、学校では講演時間を特別に設定しての依頼であった。生徒たちは、講演実施に先立ち、それぞれ関心のある分野での職場体験を行っている。この学習の延長線上で、NGO や国際協力を仕事として行えるということを考えてもらう機会とでき、この分野でのキャリア形成に関心を高めることができた。

写真



「若者×ソーシャル カンファレンス IMPACT Japan 2017」における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2017年12月28日（木）9時45分～13時00分

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1）

事業名：「若者×ソーシャル カンファレンス IMPACT Japan 2017」

主催団体：Wake Up Japan

実施内容：分科会の実施

「IMPACT Japan 2017」において、分科会「サステナブルってどういうこと！？身近なモノから考えるSDGs」を実施した。高校生、大学生を中心に、教員、NPO/NGO 関係者等12名が参加した。

所感および効果：

「IMPACT Japan 2017」は、「社会を変えたいと思っている学生、若者、及び、若者とともに行動するすべての人々」を対象に参加者を募ったイベントで、参加者の多くが高校生や大学生、若手の会社員などユースが多いのが特徴的であった。

国際協力分野に関心が高く、すでに活動をしている人も多かったが、「サステナビリティ」という広いテーマで分科会を実施したことで、自身が関わっている活動や分野以外の事柄にも目を向けることができ、国際協力についての視野が広がったという意見が多かった。また、課題理解だけでなく、行動することへの動機づけにもなったとの声があり、国際協力の国内での裾野の拡大につながると感じた。全国から約60名の参加者があり、NGO 相談員の制度についても広く伝えることができた。



2017年12月20日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人名古屋 NGO センター
理事長 西井和裕

NGO相談員による出張サービス実施報告書

11月15日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 「国際協力カレッジ 2017」における相談対応サービス

【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】

2. 出張者氏名: (特活) 名古屋 NGO センター 田口裕晃

3. 催しの概況:

- ・実施日: 2017年12月2日(土) 13時30分~17時00分
- ・場 所: JICA 中部なごや地球ひろば(名古屋市中村区平池町 4-60-7)
- ・来場者: 約 80 人
- ・概 要: 「国際協力分野のボランティア・インターン マッチング展」にて外務省 NGO 相談員コーナーを設け、参加者の疑問や相談に対応する。マッチング展では、国際協力分野でボランティアやインターンをしたい人と、ボランティアやインターンを募集中の 15 の国際協力団体とのマッチングを行う。学ぶだけでなく、具体的に動き出せるきっかけの場を提供する。

4. 実施内容: 相談対応件数: 合計 31 件

●主な相談内容は以下の通り

- ・ODA について詳しく知りたい。NGO と政府と一緒に活動するケースなど。
- ・NGO で働きたいと考えているが、どのような働き方が考えられるのか。
- ・教員をしている。2019 年度に協力隊の試験を現職参加にて受けたいと考えているが、それまでに学んでおいたほうがよいことはあるか。
- ・NGO でのインターンシップについて詳しく教えてほしい。

5. 所感および効果:

本イベントは、JICA 中部主催、当団体共催による企画で、毎年定員を超える参加者が集まり、好評を得ている。実際に、昨年度の参加者が今年は出展 NGO のスタッフ側となって活躍する等、目に見える成果が出ている。NGO 相談員として心がけていることは、参加者の中でどのブースに行ったらいいか迷っている方、総合的な視点でブースを見たい方などが気軽に立ち寄れるようにすることである。また、国際協力のキャリアについての相談も多く寄せられた。



以上

2017年12月20日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人名古屋 NGO センター
理事長 西井和裕

NGO相談員による出張サービス実施報告書

12月8日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 「信州グローバルセミナー」における相談対応サービス
【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】
2. 出張者氏名: (特活) 名古屋 NGO センター 田口裕晃
3. 催しの概況:
 - ・実施日: 2017年12月17日(日)10時20分~15時30分
 - ・場 所: 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 (JICA 駒ヶ根) 長野県駒ヶ根市赤穂 15 番地
 - ・来場者: 約 100 人
 - ・概 要: JICA 駒ヶ根にて開催される「信州グローバルセミナー2017」にて開発教育相談コーナーを設置し、参加者からの開発教育・国際理解教育・ESD・SDGs などの質問に対応する。同セミナーには教員を中心とし、開発教育の実践者が 80 名ほど来場する予定。
4. 実施内容: 相談対応件数: 合計 25 件
 - 主な相談内容は以下の通り
 - ・開発教育の教材は何歳ぐらいからが対象なのか。
 - ・自分のこどもに世界の諸問題に関心を持ってもらいたいが、どうするのがいいか。
 - ・開発教育協会について教えてほしい。
 - ・出前授業で小学校などに出かけることが多い、小学校で使える参加型の手法について教えてほしい。
 - ・NGO が作成した教材を紹介してほしい。
 - ・授業の実践について相談にのってほしい。
 - ・フィリピンを紹介する開発教育の教材を教えてほしい。
5. 所感および効果:

本イベントは、JICA 駒ヶ根主催による企画で毎年 100 名以上を超える参加者が集まっている。今年のイベントは開発教育をメインにしていたため、教員や国際交流協会職員や学生など幅広い層が参加していた。当センターは開発教育の教材を多数持参すると共に、それぞれのニーズにあった相談対応を心がけることにより、参加者の開発教育の実践を後押しした。



以上

2018 年 1 月 10 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

福島 美樹

<概要>

企画名：立命館大学 国際関係学部 小山昌久ゼミ講義

イベント種類：講演

実施日時：平成 29 年 12 月 14 日 (木) 14:40~16:10

出張者氏名：福島 美樹

主催団体名：立命館大学 国際関係学科 小山昌久ゼミ

場所：立命館大学 衣笠キャンパス

(住所) 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

<実施内容>

立命館大学国際関係学部小山昌久教授のゼミ講義にて、弊会福島が NGO や民間セクターの役割や貢献について講義を行った。本講義には、大学 3~4 年生 20 名が参加した。

日本が行う国際協力の全体像を伝えるため、国連、日本政府、JICA、NGO、企業など国際協力に参画する様々なアクターの活動を紹介した。多くのアクターが存在する中で、NGO の存在意義を、本会が実施する活動を例に挙げて説明した。また企業に就職する学生が多いと聞いていたので、企業が実施する国際協力活動も紹介した。

さらに自身の経歴を紹介しながら、NGO 職員になるまでの経緯なども紹介した。講演後には質疑応答を行った。

<集客人数または相談対応件数>

講演：約 20 名

<所感及び効果等>

講義に関して、先方から「学生が国際協力に参加したくなるようなプロモーションをしてほしい」という依頼があったので、写真や動画を使いながら国際協力を身近に感じられるよう努めた。

講義後の質疑応答では、「企業で働いている時と NGO で働いている時の違いは何か?」「現地に行かなくても出来ることはないか?」「どのようなキッカケで国際協力活動に参加したか?」など積極的に意見が出された。参加した学生は真剣に耳を傾けてくれ、彼らの意識の高さを感じた。今後も大学と連携して、こうした講義の場をもちたいと思う。

<活動風景 (写真記録)>



講演をする本会スタッフの福島



参加した学生と撮影

2018 年 1 月 10 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

福島 美樹

<概要>

企画名：立命館大学 国際関係学部 講義「基礎演習」

イベント種類：講演

実施日時：平成 29 年 12 月 25 日 (月) 14 : 40~16 : 10

出張者氏名：福島 美樹

主催団体名：立命館大学 国際関係学部 嶋田晴行

場所：立命館大学 衣笠キャンパス

(住所) 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

<実施内容>

立命館大学国際関係学部講義「基礎演習」にて、福島が NGO の国際協力について講義を行った。本講義には、大学 1 年生約 30 名が参加した。大会が行うシリア難民支援などを例に挙げ、日本の NGO が行う緊急支援や開発支援について説明した。

また国際協力業界で働くために必要なスキルや、学生時代にすべきことなどを話しながら、学生が国際協力活動に参画できるよう工夫した。講演後には質疑応答を行った。

<集客人数または相談対応件数>

講演：約 30 名

<所感及び効果等>

「NPO の活動とはどのようなものか？」というテーマで話してほしいとのことだったので、具体的な活動事例を挙げ、動画や写真を用いながら説明した。学生からは「NGO の存在は知っていたが、具体的な活動を知らなかったので知れてよかった」「物質的な支援だけが必要という思いこみがあったが、心のケアや教育など忘れがちな部分を知るキッカケになった」「実際に働いている人の話が聞けて良かった」といった意見が挙げられた。

参加者は大学 1 年生ではあるが、既に就職活動を視野に入れた活動をしている人もおり、NGO での就職に関する質問も見受けられた。今の学生は就職に対する意識が高いため、大学 1 年生の頃から、国際協力に関する授業を受けるのは、人材育成の観点からも非常に良いと感じる。今後も教育機関との協働を続けていきたい。

<活動風景 (写真記録)>



講演をする本会スタッフの福島

平成 29年12月26日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:

「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～高校生のための
国際交流・国際協力 EXPO2017～」での相談対応
※出張形態:相談員ブース出展(複数団体による合同出張サービス)

2. 出張者:

(公財)PHD 協会 坂西卓郎
(公社)日本国際民間協力会 NICCO 大豊盛重
(特活)関西 NGO 協議会 松岡秀紀
(特活)AMDA 社会開発機構 山上正道
(特活)アイキャン 井川定一

3. 実施日:平成 29 年 12 月 23 日(土・祝)10:00～16:00

シフト:

<ブース設営・準備、相談対応>

9:30～10:00 松岡(関西 NGO 協議会)0.5h

坂西(PHD 協会)0.5h

<相談対応>

10:00～11:00/坂西(PHD 協会)、松岡(関西 NGO 協議会)1.0h

チラシ配布・・・井川(アイキャン)1.0h

11:00～12:00/大豊(日本国際民間協力会 NICCO) 、井川(アイキャン)1.0h

チラシ配布・・・松岡(関西 NGO 協議会)1.0h

12:00～13:00/坂西(PHD 協会)、松岡(関西 NGO 協議会)1.0h

13:00～14:00/山上(AMDA 社会開発機構)、井川(アイキャン) 1.0h

14:00～15:00/山上(AMDA 社会開発機構)、大豊(日本国際民間協力会
NICCO) 1.0h

15:00～16:00/山上(AMDA 社会開発機構)、坂西(PHD 協会)

大豊(日本国際民間協力会 NICCO) 1.0h

<撤収、片づけ>

16:00~17:00 / 坂西(PHD 協会)、井川(アイキャン)

大豊(日本国際民間協力会 NICCO) 1.0h

※相談内容に応じて各相談員が適宜時間を延長し対応した、詳細は各団体の業務日誌に記載。

4. 場所:

大阪 YMCA ・ 2 階ホール入り口にて相談ブースを設置

大阪市西区土佐堀 1-5-6

5. 対象者:

当日イベント参加者は高校生を中心に延べ 5,000 人超(1月 5 日時点集計中のため速報数字を記載)

相談員ブースで対応した相談者数は 41 人、件数は 76 件であった。

6. 実施報告:

<実施内容>

ワンフェス for Youth の会場にて「NGO 相談員ブース」を設置し、近畿ブロックの 3 団体、中部ブロック、中国ブロックから各 1 団体、計 5 団体で 10:00 から 16:00 の間シフトを組み、各時間帯において相談員 2~3 人が相談対応を行った。プログラム全体の参加者総数は高校生を中心とし、大学生、高校教員、NGO 関係者、一般参加者を含め延べ 5,000 人、ブースを訪れた相談者は 41 人であった。

高校生主体の国際協力イベントであることから、主に高校生と高校教員から国際協力や開発教育、NGO の活動に関する質問、若い世代の国際協力活動や NGO への就職に関する相談事項が寄せられ、多様な経験と事業内容を有する複数団体で対応した。

<所感>

2014 年度、2015 年度、2016 年度と継続して NGO 相談員ブースを設置し対応をしているが、年々利用者が増える傾向にあり、近畿ブロック 3 団体だけでは対応が難しくなっており、今回は記述の通り 5 団体で対応した。全ての時間帯で相談員 2 名以上で対応したため、相談者を待たせることなく、かつじっくりと相談に答えることができ、相談者満足度は高かったと思われる。またブースに座っているだけでなく会場を回っての相談員チラシの配布も効果を奏して相談者の増加はもちろん、NGO 相談員の PR

にも寄与することができた。ちなみに相談員ブースの設置場所についても当初の1階ロビーが人の流れが悪いことを瞬時に見抜き、メイン会場入り口に相談員ブースを再設置したのは相談員の経験の成せる業であった。結果、既述の通り多くの相談に答えることができた。対象としては高校生、大学生、教員、また保護者などもおり、スタディツアーやNGOへの就職などの相談が寄せられた。

総括としては昨年度の経験を踏まえ、5団体に増員しての相談対応は成功に終わり、かつ外務省とNGOの連携、ODA広報においても若い世代にPRできた有意義な相談対応であったと言える。

7. 添付画像: 当日の様子を5枚添付



以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：大分県の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者：原田君子（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 29 年 12 月 22 日（金）11 時 00 分～16 時 00 分
4. 場所：JICA デスク大分（大分市高砂町 2-33 iichiko 総合文化センター）他
5. 実施報告：

今回の出張サービスでは①地域の国際協力や多文化共生に関する状況のヒアリング②NGO 相談員事業の紹介③NGO 相談員受託団体の活動紹介④NGO 相談員受託団体との連携可能性の検討を目的として実施した。JICA デスク大分、おおいた国際交流プラザ及び特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいたを訪問した。

JICA デスク大分、おおいた国際交流では、国際協力推進員の佐保さんに大分における国際協力の現状についてお話を伺った。民間連携事業を通して大分とカメルーンとのつながりが再度深まっている現状があり、今後の大分における国際協力活動が活発になることが期待されている旨伺った。また、大分ではおおいた国際協力啓発月間として 10 月に様々な取り組みがなされており、今後 NGO 相談事業として NGO 福岡ネットワークとの連携の可能性について話し合いを持った。

特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいたでは、太神さんを訪問し、大分県内でも特に大分市や別府市における国際協力や多文化共生についてのお話を伺った。行政と協力して大分県在住の留学生に関する様々な事業に取り組んでおり、今後国際協力に興味のある留学生の受け皿として NGO 福岡ネットワークを活用してもらおうなどといった連携について話し合った。

今回の訪問では大分の現状についてのお話を伺えただけでなく、NGO 相談員事業について広報活動を行う中で今後の具体的な連携について話し合いを持つことができた。これからさらにコミュニケーションを取りながら連携を強めていきたい。

6. 写真添付



NGO相談員による出張サービス報告書

1. 企画名：NGO 相談員って何だろう？
Silencio Roto 16 Nikkeis in 沖縄
2. 出張者氏名：上原真紀、大仲るみ子
3. 団体名：「Silencio Roto 16 Nikkeis」実行委員会
4. 実施日時：平成 29 年 12 月 3 日（日）10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所：名桜大学 サクラウム 3 F 大講義室 A（名護市為又 1220-1）
6. 参加者：80 名
7. 実施報告：

【概要】

「Silencio Roto 16 Nikkeis」の映画上映会の会場内にブースを、NGO 相談員制度や当センターの活動内容について知ってもらった。国際社会や市民活動、平和について関心の高い方々の参加者や会場の名桜大学国際関係を学ぶ学生が多く参加していた。学生からは、「NGO」について、当センターの活動への質問、地域でできる国際交流、国際理解活動についての相談を受けた。

【所感】

映画の内容が国家の体制や民主主義、人権という内容であったため、自分自身の意識を問い、日常で何ができるのかを考える学生と話すことができた。国際理解や国際交流への課題や疑問も寄せられ、当センターの活動を知ってもらえる良い機会となった。今回初めてのブース設置だったが、大学生と直接話すきっかけになり、彼らの「国際」への興味関心に触れ、NGO 相談員を知ってもらう機会になった。

【写真】



NGO相談員による出張サービス報告書

1. 企画名： 防災・減災のための拠点づくり～地域に拓かれた大学を目指すための一歩～
2. 出張者氏名： 大仲るみ子
3. 主催等団体名： 沖縄キリスト教学院大学区
4. 実施予定日時： 平成 29 年 12 月 9 日（土） 14 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所： 沖縄キリスト教学院大学（沖縄県西原町翁長 777 ）
6. 参加者： 60 名
7. 実施報告：

【概要】

大学が西原町と協働で実施する防災・減災にむけた事業に協力団体として当センターも関わり、地域在住外国人との多文化共生の取り組みやボランティア人材育成の要素を共有し、ワークショップ運営に参加した。災害時のネットワーク構築、地域の人材把握のためにも当センターの取り組みや、NGO 相談員について知ってもらう機会になった。

【所感】

地域在住の外国人と大学生が地域の防災・減災をテーマにフィールドワーク、ディスカッションを行い、地域の防災・減災意識や地域のネットワーク構築の必要性を共通理解として持つことができた。在住外国人と大学生と一緒にワークを行い、関わり合いの中でバックグラウンドの違いや母国での自然災害の有無を理解し、事前の災害への備えや緊急時に言葉（日本語や多言語）のサポートの必要性がみえてきた。地域の防災・減災への取り組みに、地域の NGO 団体として関わり、顔が見える関係性をつくることができた。また相談員制度の広報の機会にもつながった。

8. 写真



NGO相談員による出張サービス報告書

1. 企画名： ブース参加～NGO 相談員って何だろう？～
沖縄移民・世界のウチナンチュを伝える人になろう講座内
2. 出張者氏名：上原真紀、大仲るみ子
3. 主催等団体名：沖縄県
4. 実施予定日時：平成 29 年 12 月 23 日（土） 10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所：南風原文化センター
南風原町喜屋武 257
6. 参加者：50 名
7. 実施報告：

【概要】

沖縄移民をテーマにした参加型ワークショップ、指導者養成講座実施会場内にブースを設け、NGO 相談員制度について、当センターの存在について知ってもらった。教育関係者や地域での人材育成、また開発教育に関心の高い方々に相談員制度を知ってもらい、今後の制度の活用につなげたいと考え実施した。

【所感】

開発教育や地域の人材育成に関心のある方々の参加があり、当センターの活動や NGO 相談員制度について知ってもらう機会となった。

ワークショップをメインとし、合間の時間や終了後に地域での活動や開発教育教材に関する質問を受け、回答行った。中には教員や地域の中で国際理解教育に携わっている方がおり、教育現場で活用したいとの声があった。また、地域の人材育成としてボランティア活動につなげたいという声もあり、今後の連携を考えたい。

8. 写真

